EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER

01188715

PUBLICATION DATE

28-07-89

APPLICATION DATE

21-01-88

APPLICATION NUMBER

63012354

APPLICANT: HONDA MOTOR CO LTD:

INVENTOR:

KAWAKUBO HIROYUKI;

INT.CL.

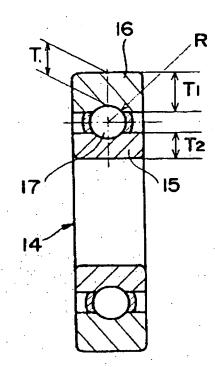
: F16C 9/02 F02B 77/00 F16C 19/02

F16C 33/58

TITLE

BEARING FOR INTERNAL

COMBUSTION ENGINE



PURPOSE: To reduce oscillations and noises by setting a radial thickness of an outer ring to be larger than that of an inner ring, and specifying a relation between a radial minimum thickness of the outer ring and a radius of a rolling body.

CONSTITUTION: In a bearing 14 composed of an inner ring 15, a rolling body 17 and an outer ring 16, a radial thickness T₁ of the outer ring 16 is set larger than a radial thickness T₂ of the inner ring 15, and a radial minimum thickness T of the outer ring 15 is set to be not less than 1.2 times as a radius R of the rolling body 17. It is thus possible to improve rigidity of the outer ring and prevent deformation, and thereby to reduce oscillations and noises.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO& Japio

BEST AVAILABLE COPY

19日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫公開特許公報(A) 平1-188715

®int. Cl. 4 F 16 C 02 B 16 C

識別記号 庁内整理番号 ④公開 平成1年(1989)7月28日

6718-3 J -6673-3 G

8312-3] 審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

49発明の名称 内燃機関用軸受

> 昭63-12354 ②符 願

頤 昭63(1988) 1月21日 御出

埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究

埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究

田田

埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究

⑪出 願 人 本田技研工業株式会社 弁理士 渡部 四代 理 敏彦

東京都港区南青山2丁目1番1号

内燃機関用軸受

2. 特許請求の範囲

- に支持すると共に内輪と外輪との間に転動体を介。 装して成る内燃機関用軸受において、前配外輪の 半径方向の肉厚を、前配内輪の半径方向の肉厚よ りも大きくしたことを特徴とする内燃機関用軸受。
- 2. 変動御童を受ける軸をケースに対して回転可能 に支持すると共に内輪と外輪との間に転動体を介 装して成る内燃機関用軸受において、前記外輪の 半径方向の最小肉厚をTとし且つ前記転動体の半 径をRとしたとき、T/R≥1.2を消足するよう にしたことを特徴とする内燃機関用軸受。
- 3. 発明の詳細な説明 (産業上の利用分野) 本発明は内燃機関用軸受に関する。 (従来の技術)

従来、変動荷重を受ける軸であるクランク軸を クランクケースに対して回転可能に支持すると共 に内輪と外輪との間に伝動体であるポールを介装 してなる内燃機関用軸受は公知である(例えば、 実開昭62-146015号公報参照)。

(発明が解決しようとする課題)

従来の内燃機関用軸受にあっては、第5回に示 す如く外輪2の半径方向の肉厚T1は、内輪1の 反径方向の肉厚T:と略等しく、また、外輪2の 半径方向の最小肉厚Tは転動体3の半径Rと略等 しく設定されている。

従って、内燃機関の爆発荷重により外輪2が変 形(高周波による微妙な変形)する。 放変形がク ランクケースに伝わることによって、振動が拡大 されてクランクケースに伝わるので、内燃機関の 振動及び騒音が大きくなるという問題点があった。

本務明は上記事情に鑑みてなされたもので、内 燃機関の爆発荷盤による外輪の変形に伴うクラン クケースへの振動伝輪が抑郁され、内燃機関の振 助及び騒音を低減し得るようにした内燃機関用軸

- 79 --

受を提供することを目的とするものである。

(課題を解決するための手段)

上記目的を達成するため本発明の内域機関用輸受においては、外輪の半径方向の肉厚を、内輪の半径方向の肉厚よりも大きくしたり、或は外輪の半径方向の最小肉厚を、転動体の半径の1.2倍以上にして、外輪の開性を高めたものである。

(作用)

外輪の剛性が高いため、内燃機関の爆発荷重に よる外輪の変形が抑制され、該外輪の変形に伴う ケースへの振動伝統が抑制され、内燃機関の振動 及び騒音が低減される。

(実施例)

以下、木搾明の一実施例を第1図乃至第4図に 基づき説明する。

第1図は本現明の内燃機関用軸受を備えた内燃 機関の要部断面図であり、同図中10はクランク ケース (ケース) で、舷クランクケース10には、 クランク軸 (軸) 11の両クランクウェブ12, 13部分近傍がそれぞれ、本現明の内燃機関用軸

ンクケースの振動曲線を示す。この第3図にて明確なように、従来の場合のクランクケースの最大振幅は18Gであるのに対して、本発明の場合のクランクケースの最大振幅は11Gと、極めて小さくなった。この結果、内燃機関全体の騒音も低減し得た。第4図は内燃機関全体の騒音曲線図であり、同図にて明確なように、外輪16の半径方向の最小肉厚下が、転動体17の半径Rの1.2倍に近くなるに従い内燃機関全体の騒音が形次低減し、1.2倍以上になると、その内燃機関全体の騒音が小さい状態で安定するものである。

なお、上記実施例においては、クランク軸 1 1 を支持する軸受に本発明を適用したが、これに限られることなく、例えば、ミッション軸等の変動 荷重を受ける軸をケースに回転可能に支持する軸 受に対して、本発明は幅広く適用し得るものであ

: (発明の効果)

以上の如く本雅明の請求項 (1) の内燃機関形 軸受は、外輪の半径方向の肉厚を、内輪の半径方 受(以下、単に軸受という)14により回転可能に支持され、これら軸受14は、クランクケース10の軸受ホルダ郎10aにそれぞれ支持されている。該軸受14は第2図に示す如く内輪15と外輪16の単位方向の肉厚T1は、内輪15の半径方向の肉厚T1は、内輪15の半径方向の肉厚T1よりも大きくなった。なお、外輪16の中径方向の肉厚T1を内輪15の半径方向の肉厚T2よりも大きく対応のみに限らず、前配外輪16の半径下向の肉厚T2よりも大きく対応のみに限らず、前配外輪16の半径下向の肉厚T2よりも大きく対応のみに限らず、前配外輪16の半径下向の水径下きるように数定しても、外輪16の附性を高めることができるものである。

上述のように外輪 16の 関性が高くなったことにより、内燃機関の爆発に伴ってクランクケース 10の 軸受ホルダ郎 10 a に生ずる緩幅 G を抑制 し得る。第3 図は本発明と従来の軸受によるクランクケース援動 G の 洞定線図であり、 同図中実線は水発明の場合の、 二点領線は従来の場合のクラ

何の肉厚よりも大きくしたものであり、また、請求項(2)の内燃機関用軸受は、外輪の半径方向の最小肉厚を、転動体の半径の1.2倍以上にしたものである。

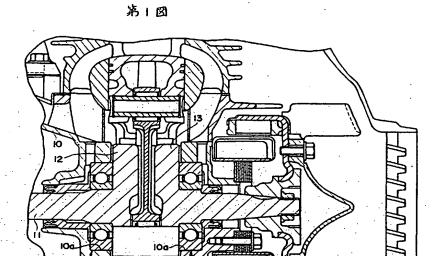
従って、外輪の剛性が高くなり、内燃機関の爆 飛荷重による外輪の変形が抑郁され、肢外輪の変 形に伴うケースへの凝動伝幡が抑郁され、内燃機 関の観動及び騒音が低減される。

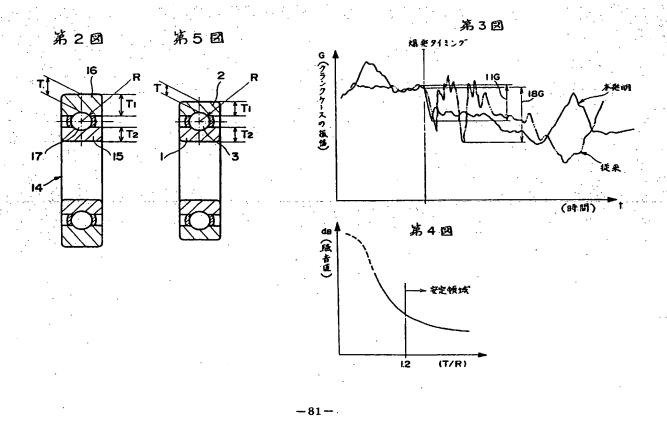
4. 図面の簡単な説明

第1図乃至第4図は木飛明の一実施例を示し、 第1図は木飛明の内燃機関用軸受を備えた内燃機 関の製部所面図、第2図は木飛明の内燃機関用軸 受の断面図、第3図は木飛明と従来のクランクケ ースの振動曲線図、第4図は岡内燃機関全体の騒 音曲線図、第5図は従来の内燃機関用軸受の断面 図である。

10…クランクケース(ケース)、11…クランク帕(輸)、14…内燃機関用軸受、15…内 輸、16…外輸、17…転動体。

-80-





BEST AVAILABLE COPY